

久留米大学を受診した患者さんへ

「C型肝炎患者におけるインターフェロン加療によるSVR後発癌患者の臨床病理学的検討・初回肝切除後のSVR症例との予後比較」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料(情報)を使用します。

- 1) 期間：2004(平成16)年1月から2013（平成25）年12月
- 2) 受診科：肝胆膵外科
- 3) 対象疾患名：肝細胞癌
- 4) 使用する情報：診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：外科肝胆膵部門講座
研究責任者：教授：奥田康司
研究分担者：助教：室屋大輔

2) 研究の意義と目的：C型肝炎ウイルスに関連する肝細胞癌患者さんにおいて、インターフェロン治療が奏功した場合の、臨床的な特徴や予後を検討し、今後の診療に活用する目的です。インターフェロンが奏功しなかった、もしくはインターフェロン未治療の患者さんの情報と比較することで、肝細胞癌手術患者におけるインターフェロンの有用性を検討する意義があります。

3) 研究の方法：上記期間に手術を施行された患者さん(C型肝炎ウイルスに関連する肝癌に対して肝切除術を施行した方)の血液検査や病理組織検査を基に統計学的に検討を行い、再発や予後を比較します。患者さん自身に新たな負担はありません。

4) 研究期間：平成28年6月倫理委員会承認後～平成29年12月31日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：インターフェロン治療が奏功した患者さんは発癌率が抑制されるということが分かっていますが、発癌する患者さんも存在し、その検討は未だ不十分なため、詳細な検討を行うことが必要であると考えられるからです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：現在すでに当科において保存している臨床情報のみを用い、統計学的な検討だけを行いますので、患者さんの個人情報公表

されることはありません。

7) 研究成果の発表の方法: 肝胆膵領域における学会発表および論文作成を予定しています。

8) 利益相反: 本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先:

(代表者氏名) 室屋 大輔 (所属、職名) 外科肝胆膵部門講座、助教

(住所) 830-0011 福岡県 久留米市 旭町 67 久留米大学病院 基礎 2 号館 肝胆膵研究室

(TEL) 0942-31-7567 (FAX) 0942-35-8967